

科目名	芸術		
担当者	阿部 寿文		
学年	1	単位	2
クラス	全学科		
開講年度学期	2014年度 冬学期		
授業の目標	人間・文化理解の手立てとしての芸術、コミュニケーションのツールとしての芸術の鑑賞そして理解を目標とする。また生活のための芸術(生きるための芸術)Art for Lifeの視点から芸術の機能を検証できるようになる。		
授業内容	芸術はコミュニケーションの手立てでもある。それは人間の歴史の中で様々な壁を越えて互いの理解に貢献してきた。言語、時間、国境、宗教などの壁をこえて心やメッセージを伝えてきた。特に非言語芸術は有史以来様々なメディアの形態で存在している。授業ではそれらの非言語芸術を中心に、それらを言語で語ることを試みる。		
授業計画	1 芸術の定義 ポップアート・ハイアート 2 芸術の機能 伝達ツールとしての芸術 3 芸術の表示的機能と判示的機能 記号としての芸術 4 芸術と自己表現 5 芸術とコミュニティのアイデンティティ 6 キッズゲルニカの開始 7 キッズゲルニカの展開 8 美術史 民族美術 9 美術史 エジプト・メソポタミア 10 美術史 ギリシャ・ローマ 11 美術史 中世美術 宗教美術 12 美術史 ルネサンス 13 美術史 北方ルネサンス 14 美術史 啓蒙の時代 古典派美術 個人主義の美術の展開 15 美術史 ロマン派から自然主義、民族主義美術 16 美術史 印象派 後期印象派(フォービズム、キュビズム、自然主義、心象主義) 17 美術史 20世紀美術(モダニズムからポストモダンへ) 18 美術史 パフォーマンスアートという概念 19 音楽史 中世ルネサンスの音楽からバロック音楽へ 20 音楽史 古典派からロマン派音楽 21 オペラ(オペラセリア、オペラブッファ、ジングシュピール)オペレッタからミュージカルへ 一定期試験一 22 試験の解答及び解説 23 授業の総括		
評価方法	定期試験(40%)授業内レポート(40%)出席状況・受講態度(20%)		
他の科目との関係等学習上および履修上の注意点			
教科書			
書籍名	著者	出版社	出版年
指定なし			
参考文献			
書籍名	著者	出版社	出版年
その他			
毎回の授業内容をファイリングして整理しておくこと。定期試験時に参考資料とし提出を求める。			